

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成21年9月3日(2009.9.3)

【公表番号】特表2009-506176(P2009-506176A)

【公表日】平成21年2月12日(2009.2.12)

【年通号数】公開・登録公報2009-006

【出願番号】特願2008-528378(P2008-528378)

【国際特許分類】

C 08 G 63/78 (2006.01)

C 08 G 18/42 (2006.01)

C 08 G 101/00 (2006.01)

【F I】

C 08 G 63/78

C 08 G 18/42 Z

C 08 G 101:00

【手続補正書】

【提出日】平成21年7月16日(2009.7.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポリエステルポリオール(A)の製造方法であって、

a)数平均分子量がポリエステルポリオール(A)のものよりも大きいポリエステルポリオール(B)を、ポリエステルポリオール(B)とは異なる62～1000 g/molの分子量を有するポリオール(C)と混合する工程と、

b)この混合物をマイクロ波放射に曝す工程

を含む、方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

上記方法は、好ましくは溶媒を使用することなく行う。必要に応じて、特別な場合、例えば非常に高分子量および/または対応して高い粘度を有するポリエステルポリオールのために、溶媒を同時に使用できる。

本発明の好適な実施態様には、以下のものが含まれる。

[1] ポリエステルポリオール(A)の製造方法であって、

a)数平均分子量がポリエステルポリオール(A)のものよりも大きいポリエステルポリオール(B)を、ポリエステルポリオール(B)とは異なる62～1000 g/mol(好ましくは62～400 g/mol)の分子量を有するポリオール(C)と混合する工程と、

b)この混合物をマイクロ波放射に曝す工程

を含む、方法。

[2] 均一なマイクロ波放射場による単一モードマイクロ波放射を使用することを特徴とする、上記[1]に記載の方法。

[3] 不均一なマイクロ波放射場による多モードマイクロ波放射を使用することを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

[4] マイクロ波放射のエネルギー入力が、少なくとも10 W/lであることを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

[5] マイクロ波放射のエネルギー入力が、少なくとも50 W/lであることを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

[6] マイクロ波放射のエネルギー入力が、好ましくは200 W/lよりも大きいことを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

[7] ポリエステルポリオール(B)が、脂肪族および／または芳香族ポリカルボン酸単位と、62～1000 g/mol（好ましくは62～400 g/mol）の分子量を有する脂肪族、芳香脂肪族および／または脂環族ポリオールまたは必要に応じてポリオール混合物とから合成されたものであることを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

[8] ポリエステルポリオール(B)が、200～6000 g/molの数平均分子量および1.9～4.5（好ましくは1.95～3.5）の官能価を有することを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

[9] ポリエステルポリオール(B)が、カーボネート基を含有することを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

[10] 発泡および非発泡ポリウレタン材料の製造方法であって、上記〔 1 〕～〔 9 〕のいずれかに記載の方法により製造されたポリエステルポリオール(A)を使用することを含む、方法。